

HER2 FISH 検査の院内化への取り組み

◎吉本 尚子¹⁾

公立西知多総合病院 臨床検査科¹⁾

【はじめに】平成 22 年、旧東海市民病院（病床数 199 床）において、病院経営改善の一環として病理検査部門からは、HER2 FISH 検査の院内導入を提案した。FISH 検査の院内導入における課題と解決策を検討し、およそ 6 ヶ月の準備期間を経て、院内導入を実施した経緯について紹介する。【課題】①採算性：外注から院内実施に切り替えるに当たり、検査結果の報告日数と検査実施費用の検討を行った。②設備：1) 蛍光顕微鏡；旧東海市民病院臨床検査科には FISH 検査に使用する蛍光顕微鏡はなかった。2) その他必要備品；旧東海市民病院臨床検査科には FISH 検査に使用する専用の備品はなく、新規で購入する費用はなかった。③人員：病理検査部門の常勤技師は 2 名で、他の病理検査業務とともに、FISH 検査の実施が可能であるかどうか検討した。④検査技術：FISH 検査の経験者がいなかったため、検査技術習得が問題であった。【解決策】①採算性：下記の表 1 に示すように、院内実施の場合は検査結果報告日数の短縮が可能であり、1 検査当たりの費用は試薬の自家調製や免疫染色試薬の併用等により抑えられることが確認できた。②設備：1) 蛍光顕微鏡；経営統合された近隣施設である旧知多市民病院の蛍光顕微鏡を使用することで解決した。2) その他必要備品；検査科内にある備品を活用することで、新規購入することなく、FISH 検査に必要な備品を調達することができた。③人員：病理検査部門の常勤技師は 2 名で FISH 検査の実施が可能であることを、他の病理検査業務とともに、実施工程（表 2）をシミュレーションして確認した。また、顕微鏡観察は、基本的にまとめて週 1 回実施することとし、業務の効率化を図った。④検査技術：1) メーカー主催の講習会（2 回）への参加して、基礎知識を学んだ。2) 愛知県内の FISH 検査実施施設の見学して業務の実際を学んだ。3) 自施設で作製した試行標本を毎回実施施設に届け、標本評価と技術指導を受けた。4) 適時、メーカーにコンサルテーションして問題解決を行った。

表 2 HER2 FISH 検査スケジュール

表 1 外注と院内実施の比較（検査費用・報告期間）

	外注	院内実施
検査費用	27,000 円	10,840 円
検査結果報告期間	1~2 週間	4 日

1 日目	前処理
2 日目	染色
3 日目	インキュベート
4 日目	顕微鏡観察・報告書作成

【まとめ】FISH 検査の院内化を阻む要因のひとつとして、検査法が煩雑で難しいというイメージが考えられる。しかし、私自身、実際に着手してみると思っていたより簡便であり、日常業務に支障なく検査を実施することができた。また、検査結果報告日数の短縮化と採算性に対して、臨床医の理解を経て、院内導入への支援につながることもできた。当院での FISH 検査の院内導入は、臨床への迅速な結果報告が可能になり、早期の癌治療方針の決定に寄与することができ、臨床医とのコミュニケーションがより良好なものとなった。

連絡先：公立西知多総合病院 臨床検査科病理検査室
0562-33-5500（内線22401）

E-mail:nyoshimotonishichita@gmail.com